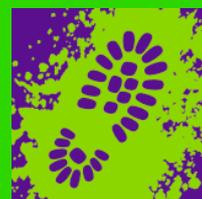




平成25年度 アイルランド英語研修・ キャンプスタッフ派遣

SAJ-SI Internship 2013

17 Aug. - 15 Sept. 2013



SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

平成25年度アイルランド英語研修・キャンプスタッフ派遣報告書



目次

1、 派遣概要	江崎 広也	P.2
2、 派遣団員紹介	野村 一樹	P.3
3、 スケジュール	大倉 成	P.4
4、 アイルランド概要	山本 健太郎	P.7
5、 アイルランドスカウティング概要	山本 健太郎	P.9
6、 キャンプサイト概要	追分 結夏	P.11
7、 実施プログラム概要	追分 結夏	P.17
8、 各係業務報告	全員	P.36
9、 23WSJのPR評価反省	全員	P.40
10、 派遣員感想	全員	P.45
11、 お世話になった方々リスト	山本 健太郎	P.54
12、 会計報告	吉田 拓馬	P.59
13、 次年度への提言	野村 一樹、大倉 成	P.60
14、 派遣期間中のインターネット環境について	野村 一樹	P.63
15、 JAPANESE EVENING	吉田 拓馬	P.64
付録		P.65
アイルランドで初めて知ったこと	全員	
プレゼンテーション資料	全員	

1、派遣概要

今派遣は約1カ月の長期に渡り、2015年に日本で行われる第23回世界スカウトジャンボリー（以下23WSJ）に向けアイルランド全土のキャンプ場を回り、各キャンプ場でキャンプスタッフとして奉仕をしながら数多くの経験を積んだ。また、日々の生活の中で英語力をつけコミュニケーション力の向上及びスタッフとして英語によるスカウト用語の習得を主とした派遣であった。

各地域でスカウトデン（スカウトハウス）を訪問し、現地のスカウトと交流をすることで、異文化理解、スカウトとしての異文化交流を図った。ホームステイやそれぞれの地域での観光など、スカウト活動のみではなくアイルランドという国や文化を学び、一人の人間として幅広い経験と学びを得ることができ、交流もすることができた。

今回の派遣のもう一つの目的として23WSJ、日本についての宣伝というものもあった。日本からの派遣団として世界スカウトジャンボリー、日本ジャンボリーについてのプレゼンテーションや、日本食でのおもてなし、日本の遊び紹介などを行った。アイルランドの方々に日本について知ってもらいそのきっかけになれたのではないかと思う。また23WSJのアイルランド連盟の参加申し込み締め切りは2013年9月末とのことであったが、PR活動に少しは協力できたのではないかと感じている。

今派遣参加にあたり、各々が目標をもちアイルランドでの約1カ月の生活を満喫した。それぞれの充実した派遣生活を感じていただければ幸いである。

この報告書を通してこの派遣を企画していただいたボーイスカウト日本連盟国際委員長鈴木令子様、派遣を担当し支えていただいた日本連盟国際部の方、今派遣全体のお世話をしただいたアイルランド連盟 Ken Lacy(ケン・レイシー)様をはじめとしたアイルランド連盟の全ての皆様に深く感謝の意を示す。またアイルランドでお世話になった方々を可能な限りお世話になった方々リストとして報告書に掲載している。

東京連盟世田谷第5団ローバー隊
クルーリーダー 江崎 広也

2、メンバー紹介



名前	江崎 広也
役職	クルーリーダー
所属	東京連盟世田谷第5団ローバー隊



名前	野村 一樹
役職	サブクルーリーダー、広報
所属	大阪連盟豊中第5団ローバー隊



名前	追分 結夏
役職	記録
所属	神奈川県連盟横浜第115団ローバー隊



名前	吉田 拓馬
役職	会計
所属	兵庫県連盟神戸第16団ローバー隊



名前	大倉 成
役職	備品、安全
所属	千葉県連盟柏第1団ローバー隊



名前	山本 健太郎
役職	レクリエーション
所属	兵庫県連盟神戸第58団ローバー隊

3、スケジュール

月日	時間	場所	内容	宿泊
8月15日 16日	15:00	ボーイスカウト会館 (東京)	集合し、 直前準備訓練・結団式。	ボーイスカウト会館 (2泊)
17日	18:00 19:00 21:55	出発 成田空港到着 成田空港出発		
18日		キャスル サンダーソン	空港到着後、 キャスルサンダーソンへ移動 開催中だったスカウトの イベントを見学	キャスル サンダーソン
19日 21日			キャンプサイトワーク	
22日		ベルファスト	ベルファスト市内見学	
23日		タイタニックセンター	タイタニックセンター見学。 その後シースカウトと合流。	シースカウトデン
24日			ウォーターアクティビティ	
25日		ダブリン	スカウトデン周辺で登山。 夕方よりリバーダンス鑑賞。 その後ダブリンのスカウトに 合流。 同団のスカウトデンに宿泊。	シースカウトデン
26日		ダブリン	夕方まで自由時間。 夕方より同団のスカウトと夕 食	
27日		フォタ	フォタキャンプセンターへ 移動。 道中で日本庭園を見学。	フォタキャンプ センター
28日		コーク	コーク市内見学 夕方より 23WSJ のプレゼン	
29日			キャンプサイトワーク その後マウントメレリーへと 移動	

30日 9月1日		マウントメレリー	マウントメレリーにて スタッフトレーニング 1日に23WSJのプレゼン した後ラーチヒルへ移動。	マウントメレリー
2日		ダブリン	ダブリン市内見学 ダブリン市内のスカウトに 23WSJのプレゼン	ラーチヒル
3日			ダブリン市内見学 演劇鑑賞	
4日		ラーチヒル	キャンプサイトワーク	
5日				
6日			Japanese evening と称して アイルランドのスカウト、 リーダーに日本料理を振舞う	
7日				
7日		キラルーウォーター アクティビティー センター	二つのスカウトデンを訪問 その後キラルーウォーターア クティビティセンターへ 移動	キラルーウォータ ーアクティビティ ーセンター
8日			ウォーターアクティビティ	
9日			午前中はウォーター アクティビティ その後キャッスル サンダーソンへ移動	キャッスル サンダーソン
10日		キャッスル サンダーソン	サイトワーク	
11日		キャッスル サンダーソン、 ダブリン	サイトワークの後、 ダブリンへ移動 スカウトの集会を見学	ホームステイ
12日		ダブリン	ダブリン市内観光	
13日		ラッシュ	学校訪問、市長訪問 現地のベンチャースカウトと 共にスカウトハウスに宿泊	スカウトハウス

14 日	12:00 14:55 19:30	ダブリン空港 パリシャルルドゴ ール空港	スカウトデンを出発、空港へ ダブリン空港出発 パリ空港到着 パリ空港出発	機内泊
15 日	16:00	成田空港	成田空港着(二時間の遅延) 解団式ののち解散	

4、アイルランド概要

◎国名 : アイルランド共和国 (Ireland) (Eire: エール)

◎国旗 :



※緑=カトリック
オレンジ=プロテスタント
白=両者の調和と強調

◎国章 :



ハーブ

◎首都 : ダブリン

◎時差 : 日本との時差は9時間 (サマータイムは8時間)

◎面積 : 70,284 km² (北海道とだいたい同じ)

◎政体 : 立憲共和制、EUに加盟

◎人口 : 約459万人 (2011年アイルランド国勢調査)

◎通貨 : ユーロ (1ユーロ=約135円)

◎地理 : グレートブリテン島の西側の島。

◎言語 : アイルランド語、英語

◎人種 : アイルランド人

◎気候 : 西岸海洋性気候

◎気温 : 年間の温度差が小さく、穏やか。

気温… 夏= 最高: 18.5度 最低: 10.6度

冬= 最高: 7.6度 最低: 2.0度

◎宗教 : カトリック: 約85% プロテスタント: 約3%

◎歴史 : アイルランド島に最初に人がやって来たのは、紀元前7,000年頃の中石器時代といわれている。その後、紀元前3世紀ごろになると、ゲルマン民族の大移動により、ケルト民族がアイルランド島に入ってきた。すると、彼らの文化や言語を通してケルト文化が島全体に広がった。

432年、アイルランド島に渡った聖パトリックはキリスト教を広めた。キリスト教はケルトの文化と融合して広まったため、殉教者を出すことはなかった。

9~10世紀になると、アイルランド島にはバイキングが侵入し、ダブリン

ンやコークなどの商業都市を各地に築き、交易を営んだ。バイキングは次第にケルト人の文化と融合していき、また新たな文化が生まれることとなった。

12世紀に入るとノルマン人が侵入してくるようになり、アイルランドを支配下に置いたが、その後イングランド王に政権が変わる。18世紀頃に入るとイングランドはアイルランドを完全な支配下に置こうとする。1840年代にはジャガイモ大飢饉が起き、アイルランドの人口の約半数が犠牲となった。

第一次世界大戦には1922年アイルランド独立戦争が起き、アイルランドの一部はイギリスから独立する。一方、北アイルランドでは、カトリック教を信仰するアイルランド人とイギリスと連合主義であるプロテスタントとの対立が激化し、約30年にわたり問題があった。しかし、現在平和的な解決に向かって話し合いが進んでいる。

参考文献

『アイルランド 外務省』

(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ireland/index.html>)

『アイルランド概要 地球の歩き方』

(http://www.arukikata.co.jp/country/europe/IE_general_1.html)

5、アイルランドスカウティング概要

◎連盟 : Scouting Ireland

◎本部 : Larch Hill キャンプ場

◎スカウティング人口 : 約40,000人

◎歴史 : 現在のアイルランド連盟はもともと、the Scouting Association of Ireland (SAI)と、the Catholic Boy Scouts of Ireland (CBSI)の二つに分かれていた。SAIは1908年に、CBSIは1927年に設立された。

1908年にボーイスカウト活動はイギリスからアイルランドに広まった。ちなみに、初めてのアイルランドでボーイスカウト活動が行われたのはダブリンで、1908年2月15日のことだった。SAIは1949年に

WOSM(the World Organization of the Scout Movement)に登録される。

1920年代になると、カトリック教会がボーイスカウトの考えを引き継ぎ、CBSIを作った。この二つの連盟は1965年に合併し、the Federation of Ireland Scout Associations(FISA)となった。しかし、実際にはこの二つの団体はそれぞれ分かれおり、2004年1月Scouting Irelandとしてようやく統一される。2004年からはOne Programme というシステムが導入され、スカウト活動の指針となっている。



◎ One Programme

・ 狙い

若い人々の身体(Physical)、知性(Intellectual)、感情(Emotion)、社会性(Social)、性格(Character)、精神(Spiritual)を向上させ、より良い社会をつくるための人材を育てる。 Social、Physical、Intellectual、Emotion、Social、Character、Spiritual の頭文字を合わせて SPICES と呼ぶ。

・ スカウト教育法(Scout Method)

Activities Outdoors & Indoors、Promise & Law、Young People & Adults working together、Learning by Doing、Leadership & Responsibility、Symbolic Framework、Personal Progression、Small Group System の8つからなる。



• 学びの目的

ビーバースカウト(6～8歳) …「どのようにコミュニケーションを取るかを知る」
カブスカウト(9～11歳) …「コミュニケーションと聞くことの重要性を知る」
スカウト(12～15歳) …「コミュニケーション能力の向上を目指す」
ベンチャースカウト(15～17歳) …「効果的なコミュニケーションの実践を目指す」
ローバースカウト(18～20歳)
リーダー(18歳～)

• プログラムの循環

Plan(計画) …どのようなスキル、知識を向上させるか、そのための活動を計画する。

Do(実行) …必要なものをすべて準備し、活動に参加する。

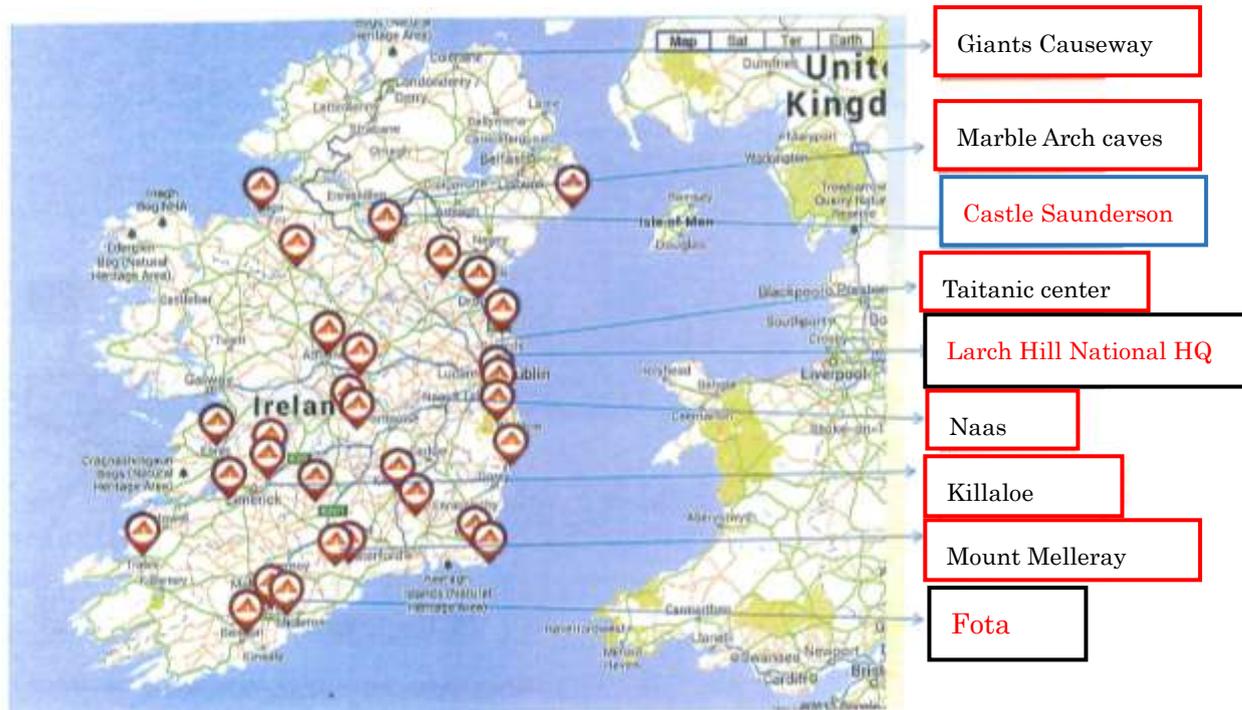
Review(反省) …どのような活動が出来たか、楽しめたのか、何が達成できたのか、どのように改善すればいいかを考える。

• Adventure Skill

9つのAdventure Skillがあり、それぞれ9つのレベルに分かれている。Scout skillsとExternal skillsと二つからなっている。日本のターゲットバッジと似ている。



6、キャンプサイト概要



私たちがアイルランドで主に訪れキャンプスタッフとして滞在した5つのキャンプセンターの紹介。

○Castle saunderson,



Dublin 空港から車で約90分走った北アイルランド(イギリス領土)の国境の狭間にあるキャンプセンター。アイルランドスカウトの大きなキャンプ場の中では一番新しくできたセンターで、古いお城の敷地にあり、とても大きく550エーカーもある森に囲まれている。舎営施設も大きく46室のベッドルームとミーティングルームなど全部の部屋を含めて200室、最大1000人泊れる。Wi-Fiはセンターの1階ミーティングルームとスタッフルームのみ使える。



キャンプ場



室内でのセレモニー

○ Fota Scout center,



Fota では90年以上のスカウトがキャンプなど活動をしていた歴史がある場所である。センターは東の方へ12kmの所にあり、ミドルトン駅から100mに位置する。地域を探索するために交通に便利な所に作り、毎時Cobh駅とCork駅から列車が出ている。Cork wild park という動物園の横にある。

広さは30エーカーあり、2つのキャンプサイト、キャンプファイヤー場、トイレ、シャワーが設備されている。施設内には14個の寝台と4つのキャンプベッドがある。フルキッチンがあるので料理もできる。Wi-Fiは無く、シャワーは5分以内と制限あり。



駅のすぐ隣



キャンプサイト



会議用テントとセンター



キャンプ場



舎営内と寝台

○Mount Melleray,



キャンプ場本部施設



本部施設周辺

Waterford州にある Knockmealdown 山のふもとにある Cappoquin town 外に建てられたセンター。

施設は元々、Mount Melleray の修道院に付属する学校を1979年にスカウトセンターとして改築したものである。室内では最大300人宿泊可能、グラウンドでは200人ほどキャンプすることができる。

スカウトトレーニングにも使われ、パイオニアリングの縛材やクライミング道具、ボルダリングルームなどもある。その他大きなキッチン、シャワー、トイレはもちろん、ビリヤード台、バスケットコートがあるのでコミュニケーションとして使える。Wi-Fiはないがスタッフに言えばパソコンを貸してもらえるのでネットを使うことはできる。



ボルダリングルーム



会議室



資料室



キッチン



ビリヤード

○Larch Hill



本部建物

Dublin から 11 km 離れた Kilmashogue と Tibbradden という山の間にある 36 ha の広さもあるスカウトセンター。33 ha はキャンプグラウンドもありいくつかのサイトで分けられている。

3つの宿泊施設があり、Eco Village では40人宿泊可能。ダイニングテント、キッチン設備あり。

Main House では48人宿泊可能。ダイニングルーム、トレーニングルーム、キッチン、シャワー、トイレ設備あり Centenary Lodge では26人のベッドで宿泊可能。ダイニングエリア、キッチン、シャワー、トイレ設備あり。Wi-Fi はオフィスハウス付近のみ可能だがパスワードが必要。



宿泊したロッヂ



オフィスハウス (Wi-Fi 使用可能エリア)



キャンプサイトの1つ



モンキーブリッジ

○Killaloe



キャンプ場施設



広場

Clare 州 Limeric 市から 20 km の Derg 湖のほとりにあるスカウトセンターで水のプログラムを中心にできる場所である。

水のプログラムであるセーリングやカヌー、ボート、ラフティングなどができる。その他にもクライミング、ハイキングやオリエンテーリング等の活動もしている。

シャレーでは2つの部屋に24人のベッドと2つのリーダールームに8人のベッドがあり宿泊可能。

2つの部屋のみトイレとシャワーがついている。キッチンも設備されている。Wi-Fi 有りだが部屋だと繋がりにくい。キャンプ場は少し離れた限られた所にある。



セーリングを教わる



クライミング



センター前の湖



ゲームもできるスペース

7、実施プログラム概要

・ 8月15～16日：ボーイスカウト日本連盟ボーイスカウト会館にて

15日、自己紹介などのオリエンテーションを行い、今派遣の内容説明を受け、当初予定からの変更点もあり、詳細について理解した。

アイルランドスカウトへ日本文化紹介をするための内容を話し合い、日本文化、日本のスカウト進歩制度、ソング、ゲームを実施することに決まった。詳しい内容とタイムスケジュールを全員で話し合った。

16日、日本紹介のプレゼンテーションのリハーサルを行い、準備不足で資料が足りない、時間配分が甘い、ジェスチャーをもっと入れた方が良い、無言の時間が多々あるので合間のトークを考えるなど、日本連盟国際委員会の方からもたくさんのアドバイスを頂いた。

リハーサル後、結団式、任命式を行い成田空港へ出発した。



・ 18日～21日：Castle Saundersonにて

ダブリン空港へ到着。アイルランド連盟のケンさん、ダミアンさん、アネットさんと合流し Castle Saunderson キャンプ場へ移動。当日は Phoenix Challenge という北アイルランドを含めたアイルランド中のスカウトが参加するパイオニアリングの競技会の最終日であった。そのサイトエリアを見学、その場にいたスカウトと交流を楽しんだ。その後、閉会式に出席し、日本派遣団のスカウトとして紹介された。

Castle Saunderson ではキャンプサイトワークとして、はじめにキャンプサイト見学、キャンプサイトゴミ拾い、キャンプ場の成り立ち、整備、キャンプセンター内清掃、ベットメイキング等を行った。



・ 22日 Belfast にて

Castle Saunderson を出発し、Belfast 市内を見学、その後移動し、近くの山でヒルウォーク（ハイキング）を行った。現地スカウトの団ハウスを見学し、スカウトからゲームを教えてもらい、一緒に楽しんだ。良い機会だったので日本文化紹介の発表に用意したハンカチ落としをリハーサルとして経験してもらった。その後、市内のリーダー宅へホームステイ、その夜は現地リーダーの送別会に参加、そこではリーダーやローバーとスカウトの話やソングなどいろいろな話ができ良い交流ができた。



・ 23日 Titanic center にて

Titanic center 見学、悲劇で有名なタイタニック号の造船された場所であり、歴史や造船場の様子、船の内部の装飾、その時代の背景など学んだ。

Titanic center 見学後、Sea Scout の団ハウス到着。歓迎会として、カブ隊の集会に参加、夕食はベンチャー、ローバー、指導者と BBQ を楽しんだ。そこで Sea Scout がどんな活動しているかなど話が盛り上がった。



・ 24日 Sea Scout 団ハウスにて

Sea Scout と Water activities ということで一緒にカヌーに挑戦。スカウトにカヌーの扱い方を教わり、レースやカヌーを並べてその上から落ちないように渡るブレイブゲームに挑戦した。



・ 25日 Sea Scout 団ハウスにて

Sea Scout 団ハウス近くの山をハイキング。地元では有名なのか散歩やトレイルラン、ピクニックしている人を多く見かけた。野生のアザラシや野鳥も見られアイルランドの自然をたっぷり感じる事ができた。

夕方からアイルランド連盟の方たちにアイリッシュダンスの舞台“River dance”に招待され、一緒に観賞。アイルランドの歴史を背景に展開され、伝統のダンスがいかに愛されてきたのかを感じる舞台だった。終了後 Naas の団ハウスに移動。



・ 26日 Naasにて

夜に歓迎会があるということで日本の料理も体験してもらおうと近くのスーパーへ買出し、準備をし、親子丼を振舞った。アイリッシュには合わなかったのか美味しいとは言っていたが反応はいまいちであった。参加者と様々な話をしながら、交流を深め、アイリッシュダンスを教えてもらい一緒に踊った。



・ 27日 Naas にて

Naas の日本庭園を見学。アイルランドと日本の関係を感じる。海外から日本を見ることで改めて日本の感性の美しさを学んだ。Fota Scout Center へ電車を乗って移動。



・ 28日 Cork、Fota にて

Blarney Castle という城を見学、城の石にキスをするとおしゃべりになるという伝統があり、全員で挑戦、普段からおしゃべりなので特に変化はなかった。

夕方から、23WSJのプレゼンテーション発表を行った。日本について、23WSJについてアイルランド連盟の方と共同で発表を行い、日本の遊び体験も実施した。参加者には親子が多くWSJの参加へ高い関心があることを感じる事ができたプレゼンテーションであった。





日本紹介・23WS Jプレゼンテーション



・29日 Fotaにて

Camp site work としてファイヤー場整備をした。掃除、崩れかかったファイヤー場の石の組み直しを行い、すぐに使えるようにした。またリーダーからキャンプスタッフの仕事の説明を受け、スタッフの心構えも学ぶことができた。

その後 Mount Melleray へ移動



・ 30日～9月1日 Mount Melleray にて

アイルランド各地の指導者や若手のキャンプスタッフが Mount Melleray に集まり、講義やゲーム、実技などをしてスカウト指導を学ぶスタッフトレーニングに参加した。初日の研修ではチャイルドプロテクションを中心に学んだ。トレーニング終了後には修了証を頂いた。



・ 2日 Dublin にて

Nora（ノラ）さんの案内で Dublin 市内を観光。観光周遊バスに乗りトリニティカレッジやアイルランドの歴史に関係のある場所を紹介してもらった。翌日が各自 Dublin でのフリーデーだったのでどこが面白いかなど見所をわかりやすく教えていただいた。夕方には移動し Dublin 市内の団ハウスにて 23WSJ のプレゼンテーションを行った。



・ 3日 Dublin にて

各自自由行動。それぞれギネスストアや Dublin Zoo、ショッピングなどを楽しんだ。スカウトショップにも立ち寄り、買いものした後、John（ジョン）さん達と合流し演劇「MAJOR BARBARA」を鑑賞した。歴史の話であり、当時のロンドン労働者階級のなまりのある英語での会話も多く、話を理解するにはとても難しい作品だった。



アイルランドで有名なギネスビールの工場



歴史の長い動物園 Dublin zoo

・ 4日～6日 Larch hill にて

Camp site work としてスカウトショップの在庫検品、常設テント村をつくるためのマーカーテントを建てる作業を行った。テントをたてるために整地、枝を撤去する整備から始めた。キャンプ場を知るためのオリエンテーリングのゲームも行った。夜は今派遣について、WS J についての会議に参加し、アイルランド連盟のプログラム担当者から進歩制度 (One Programme) などを学んだ。





・ 6日 Larch Hill にて Japanese Evening

午後からアイルランドスカウトに振舞う為の日本料理をメンバーで調理。浴衣を持っているメンバーは浴衣を着用し、その他メンバーはハッピーを着用、会場を日本の手ぬぐいや玩具で飾り、会場準備を行った。渋滞の為、開始時刻の20時には数人のリーダーしかおらず、リーダーに折り鶴の折り方を教えて時間を調整した。日本の伝統的な玩具であるけん玉やコマ回しも体験してもらい、参加者がみな夢中になっていた。遅れてカブ、ボーイ年代のスカウトが到着し、日本食、焼きおにぎりとうどんを振る舞った。とても好評でみんな楽しそうに食べていた。

その後、鶴の折り方教室、日本の玩具で遊ぶコーナー、名前をひらがなで書くエリアに分け体験してもらい、参加者はそれぞれ熱心に折り方を学んだり、とても楽しんでもらったと感じた。





・ 7日移動日

2つの団ハウス訪問。始めに 35th Dublin Donore Ave を訪問し、ポーリッシュスカウト（ポーランド人のスカウトグループ）も一緒に3ヶ国の交流集会となった。2つの団のカブ隊とアイリッシュダンス、折り紙、お菓子作りを通して交流を深めた。とても日本に興味を持ってくれたようで披露した「山賊の歌」のウケもよかった。

続いて 8th KILDARE ではボーイ隊と一緒にロープワーク、パイオニアリングを通じて交流し、一緒に食事をした。アイルランドのスカウトは日本のスカウトハンドブックの絵や写真を興味深かそうに見ていたのが印象的だった。

Killaloe National Water Adventure center へ移動。リーダー、ローバーと合流し、ゲームをしたりしながら談笑し楽しんだ。





・ 8日 Killaloe National Water Adventure Center にて

リーダーに教えてもらいながら大きなヨットに乗り7人で乗り帆の動かし方や、舵の取り方などを体験した。微妙な風向きを感じ取って操作しないといけないので難しく感じた。スタッフのスカウトが転覆した時の対処方法を実演してくれた。

午後からはアイルランドの国技ゲーリックフットボールの決勝戦があるということでスタッフ全員で観戦、地元チームの出場ということもあり、とても盛り上がった。

夕方は皆でBBQ、料理人を目指すローバーが日本食の材料を用意してくれていたの、一緒に焼きそばと鮭のムニエル、焼きおにぎりを作った。焼きそばはすごく良い評判だった。

夜は若手スタッフだけで交流し、テレビゲームや、お互いの国の音楽をみんなで聞いてローバー年代ならではの交流を楽しんだ。



・ 9日 Killaloe National Water Adventure Center

朝食後、クライミングに挑戦。かなり高く難しいコースだったが、何回か挑戦してほぼ全員クリアできた。

その後エンジンボートに乗せてもらい湖を探検、ダム発電所の近くまで行ってダムを見せてもらった。昼食後、Castle Saunderson へ移動



・ 10日 Castle Saundersonにて

Camp site work として設備清掃、ベッドメイキング、部屋の模様替え、次週のイベントのための飾り付け等を行った。夕食には期間前半に出会った Tony (トニー) 一家も来てくれたので日本料理を振舞った。息子の Adam (アダム) と遊んだりして一緒にの時間を楽しんだ。

最後お世話になった Tony (トニー) 親子、Finber (フィンバー) さんへ感謝の気持ちとプレゼントを渡した。





• 11日 Dublin にて

Castle Saunderson で最後の Camp Site work を行い、Dublin へ移動。
Dublin にある団ハウスで23WSJの発表、カブ隊に折り鶴を指導し、交流。どこの国でもカブ隊がやんちゃなのは変わらないようである。
この日は団のリーダー宅でホームステイをした。





・ 12日 Dublinにて
最後のフリーデイ。それぞれで博物館や買い物などまわり、好きなことをしてダブリンを満喫した。



・ 13日

近くの小学校へ日本の文化を紹介するために訪問。日本語の授業のクラスで、日本語で自己紹介してくれた。全員がスカウトではないがアニメやドラマ、音楽など様々な形で日本を知っている生徒が多く、改めて日本文化が世界から人気であることを知った。

続いて Fingal County Council 州知事訪問。日本スカウトとして23WSJを機会に交流を深めて来たことを報告。その地域、地域でのスカウティングについて、またアイルランドのことを教えていただいた。

その後 Rush という村の団ハウスに宿泊。日本からワーキングホリデーでアイルランドに滞在している日本人の逢沢さんと一緒に、村を散策。

夜は現地のスカウトと団ハウスに宿泊。ギター演奏や歌を歌って一緒に最後のアイルランドを楽しんだ。



・ 14日 Dublin 空港

団ハウスを出発し、空港へ、Ken（ケン）さん夫婦がお見送りに来ていたので空港で感謝の言葉とプレゼントをした。

ダブリン空港12時出発。

パリ・シャルルドゴール空港14時55分着 ここでメンバーの野村一樹がヨーロッパでの大学の研修のため離団

パリ・シャルルドゴール空港19時30分出発 機内泊





- 15日成田空港にて
成田空港16時到着 出発前に機内異常があり2時間遅れて到着。
日本連盟国際委員長の鈴木令子さんと合流、その場で解団式を行い、解散した。
平成25年度アイルランド英語研修キャンプスタッフを終了。



8、各係業務報告

8. 1 クルーリーダー

今回はクルーリーダーという役割を担わせてもらったが正直クルーリーダーらしいことはまったくしていないと私自身感じている。というのも今回の派遣メンバーはそれぞれが様々なところで素晴らしい経験を積んできたばかりのスカウトで、私がリーダーとして活動することはほとんど必要がなかった。また、それぞれに特化した技術がありそれぞれの場面でリーダーシップを発揮していたため全体を通じてのクルーリーダーとしての主な業務はアイルランド連盟担当者との連絡や交渉のみとなった。

今回は先にも書いたようにメンバーが素晴らしかったため本来のクルーリーダーとしての業務はほとんどなかった。とても恵まれていた派遣だった。

8. 2 サブクルーリーダー

○業務内容

クルーリーダーの補佐としてサポート並びに派遣団全体の運営をスムーズに行うための補助を行う。

○評価・反省

自身がローバー派遣のウガンダは経験があったため、少人数グループでの海外派遣で起こりうること、状況判断は適切に行えたのではないかと感じている。アイルランド連盟のスタッフともスケジュールや活動内容を随時打ち合わせ、確認を行うようにはしていたがトラブルや交通の問題、アイルランド連盟のスタッフ同士でのズレもあり急な予定変更が多く、当初は対応に苦労した。

反省として、当初は派遣員全員が「いまどうすべきか、次にどうなるか」という意識が薄く、自分自身の行動を優先している傾向が強く、もっと団体行動としての意識付け初めから積極的に行うべきだったと思う。今回は指導者がいない状態で良い意味でスムーズに動きやすいと考えていたが、いくらローバーといえど事前訓練ではじめて顔を合わせて、初対面同然だったため、それぞれの性格や特性の把握、また意識統一をするのに時間がかかった。ローバースカウトなら大丈夫かと思っていたが、やはりそれぞれのバックグラウンドが違い、海外や派遣の経験の差もあり派遣団としてまとめ、派遣団としてスムーズな行動ができるようになるのに時間がかかってしまった。

もっと統一できていればスムーズに事が運べてより多くの経験ができたのではないかと感じている。

○次年度へ

現地での予定変更や突然のトラブルはどうしても多いのであらゆる可能性を想定して準備し、クルーリーダーと常に予定をアイルランド連盟のスタッフと相談し把握しておく必要がある。まさに“そなえよつねに”である。

派遣団内でのやりとりとして、事前訓練が出発直前であるため、派遣団員が決定した時点で連絡を取り、事前に顔合わせを行うなどコミュニケーションをとっておくべきだと思う。今回は関西在住の3人の参加者は独自で顔合わせを行ったため、コミュニケーションが取れており、意識統一もスムーズであったと考えている。

8. 3 広報

○業務内容

アイルランドでの派遣期間中に活動の様子を Facebook にアップし、更新を行った。日本、アイルランド双方のスカウト関係者に向けての発信を目的とした。

○評価・反省

アイルランド連盟のスタッフさんが写真をとってくださることが多く、更新もしていただいた。今回の Facebook ページは担当の Ken (ケン) さんが作成して下さったもので、16NJ で来日されている時に直接お会いし、日本、アイルランドのスカウト、リーダーに対して派遣の内容を伝えることが目的でお互いに更新しようということで始まった。

日本人が更新するときは英語、日本語の両方を使用することで英語が苦手な関係者への PR もでき、自身の英語のスキルアップも兼ねて業務を行うことができた。

ネット環境がないときはアイルランド連盟のスタッフにお願いするなど可能な限り更新を滞らせないようにするほうが良い。

○次年度へ

活動の様子をアップする際の線引きは必要である、そのため参加者からしか聞けないこと、報告会でしか聞けないことなどはその時まで裏話としてとっておく方がよいと感じた。活動したことの重要なことや要点を数日に1回程度更新できれば良いのではと思う。また参加者の関係者はどうしても健康の心配があるので参加者の元気な姿を載せることも重要である。

今回は全員が同じスケジュールであったが、当初の予定通り2人1組となった場合どういう風に情報を更新するかは事前に打ち合わせする必要がある。

今回は Facebook のみを使用したブログや Twitter の利用も面白いのではないと思う。

8. 4 レクリエーション

○業務内容

アイルランドのスカウトとの交流において、進行役、また場の盛り上げ役を担当。

○評価・反省

交流会においては、日本の歌やエール、遊びを紹介することが出来ただけでなく、アイルランドの歌やエール、また踊りなどを体験することが出来た。

反省として、日本の民謡や伝統的な遊びをもっとしっかり準備していれば、より充実し

た交流が出来たと思う。また、歌を歌ったり、遊びを紹介したりする際、日本人同士で相談する時間が長かったため、メンバー全員で事前に内容を把握しておくことが重要である。

○次年度へ

日本の民謡、遊び、踊り、また日本のスカウトの歌やエールをより多く準備しておくことが望まれる。そして、それをメンバー全員で共有し、いつでも出来るようにしておくことが重要だと感じた。それぞれが2~3個の持ちネタを準備していくとさらに良い交流ができると思う。

8. 5 安全

○業務内容

派遣隊全体の現地における安全管理

○評価・反省

今回の派遣では安全係として活動してきたが、実際に安全係として活動することはほとんどなく、手持ち無沙汰になることが何度かあった。結果、一部のスカウトに多くの負担をかけてしまった。このような結果を招いた原因は、私の役割に対する認識不足である。私自身が派遣団の安全を保つためには何をすべきか認識しておらず、この役割は形骸化してしまった。安全担当として機能していれば、派遣団全体が余裕を持って行動できたと考える。

○次年度へ

今回の派遣では、安全係は海外での危機管理という点において以下の役割を果たすべきであったと考える。1点目は班員の健康管理である。慣れない気候、文化の中での一ヶ月の活動は派遣員全員の体力を大きく消耗させる。派遣中盤においては、疲労が頂点に達し半日ほどの自由時間を設けてもらったりもした。その中では、班員の健康を管理し、病気だけでなく注意力不足から来る怪我の危険などを最小限に抑えるための役割が必要である。2点目は、日程に関する深い理解をすることである。日程の急な変更は班員への負担を大きくする。バスに乗り遅れるなど、その後の予定を大きく狂わせる恐れのあることは事前に把握しておき、班員に喚起しておく必要がある。安全係として、あらゆる危険を想定し、それらを班員と共有して事前に防ぐことが重要である。次年度からの派遣においては、安全担当は以上の二点を把握して行動すべきだと考える。

8. 6 記録

○業務内容

主に報告・記録用に活動写真を撮る。記録する。

○評価・反省

担当者として自己評価すると達成度は60%達成。今回の派遣は長い期間で先がなかなか読めない派遣だったので、何をどこまで撮っていいのからず、常にカメラを持ちまめに撮っていた。だが、作業を真剣にしているのに撮り忘れてたり、地名や建物の名所などの表記を記録、撮影を撮り忘れた所もあり、報告書の時に少し困った。

約1カ月と長かった為に期間中に撮った写真数は4000枚以上とかなりの枚数だったのでパソコンにバックアップするのにかなりの時間がかかった。なので、活動期間内、1日の終わり毎にバックアップしとけば報告書作成時にはよりスムーズにできたと思う。カメラの盗難や故障も考えて、バックアップした方が良かった。

8. 7 会計

○業務内容

具体的な業務内容として、日本連盟から預かっている派遣予備費の10万円の管理と、派遣中にその予備費などから使った場合の収入・支出の管理などが主な業務内容である。

○評価・反省

日本連盟から予備費として預かっていたお金は、この派遣では使わないであろう。と考えていたが、空港での飲食やアイルランド現地での買い物などに実際使う機会があった。金額的にはそれほど高い金額ではなかったが、最終的に日本円に換金する際に、差異が出てしまった。

それに加え、1回1回の支出の度に、帳簿をつけていたのだが、しっかりしたものではなく支出額を理解するだけの簡易的な帳簿だったため、決算書の制作時にかなり苦労した。

○次年度へ

日本連盟より予備費を預かるのは、次年度も同じだと考える。なので、前回の派遣のように、計画もなしにお金を使うのではなく、出国までに現地で買わなければならないもの。現地ではこのくらいの金額が必要。などのことを予想し、ユーロへ換金して欲しい。

そして、しっかりノートを用意して帳簿を書いてもらいたい。これは、担当の一人が見るものではなく、派遣員全員で見て毎回確認をとってもらいたい。

9、23WSJのPR評価反省

☆プレゼンテーションについて

●日本の概要（大倉成）

日本の位置、気候など、文化以外の基本データについて

○反応

事実を伝えるだけの発表にならないようなクイズ形式で発表を行ったため、一方的で退屈な発表にはならなかったと考える。

○評価反省

伝えた内容は時間も考慮すれば適当だったと感じた。しかし、クイズの出し方が単調でつまらないものになってしまった。

○改善事項

スライド内での写真を増やし退屈せずに聞けるようになった。また、クイズにただ参加させるだけでなく聴衆にも話を振るなどしてより一体となった発表になるようにすべきだった。

●日本の概要（追分結夏）

日本へのアクセス、日本の自然

○反応

日本についての気温や気候の変化や、日本の自然についてなど基本的な紹介だったので一方的に話す形になった。ですが、日本の四季の写真を使ったところ日本の四季の美しさが伝わり興味を持ってもらえた。

○評価反省

私は英語が苦手だったこともあり、緊張してしまい台詞を暗記できずにカチカチの言葉になってしまった。聞いてくれている人達の目も見余裕を作ることが出来なかった。回数を重ねて、派遣期間後半には聞き取りやすく、動きも加え良いプレゼンテーションにすることができた。

○改善事項

今回は時間も少なく内容も少なかったが、地図を使ってアイルランドから会場までのアクセスを更にわかりやすく伝わるので改善したい。台詞は紙(カンペ)を見ずにアクションも大きくすれば、うまく発音出来なくても大体は伝わると学んだ。

●日本の観光地（山本健太郎）

東京、京都、広島観光スポット、また日本の最高峰である富士山を紹介した。

○反応

WSJに参加した際に観光するかもしれない場所を紹介することで、さらに日本に興味を持ってもらえたと感じた。

○評価反省

京都の寺院などを紹介したが、あまり良さが伝わらなかったため工夫が必要だと感じた。

○改善事項

日本の観光スポットについて詳しく調べつつ、それを短時間にまとめる必要があると感じた。また、発表時間が必ずしも同じではないので、短縮した場合のバージョンも事前に作っていくと良いと思う。

●日本紹介（吉田拓馬）

日本の文化を分野に分けて紹介

○反応

日本の紹介をする際に大きく分けて、食・産業文化・クールジャパンの3つに分野してプレゼンテーションを行った。

それぞれのセクションで、会場にいる年齢層に合わせて即興クイズなどを行い、とても盛り上がり興味を持ってもらえたと感じた。

○評価反省

食・産業文化・クールジャパンとわかりやすくセクションを分け説明したことによって、それぞれに興味を持って聞いてもらえたと考える。

○改善事項

プレゼンテーションのスクリーン画像だけではなく、それぞれのセクションに関連する商品や現物を手に持ち話をすればさらに理解が深まったと考える。

●日本のスカウティング紹介（大倉成）

日本のスカウティングの概要、主に進級制度について紹介した。

○反応

日本とアイルランドでは進級制度において大きな違いが見られなかった為、特に問題なく理解してもらえた。

○評価反省

進級制度への理解がスムーズだった分、より多くの情報を盛り込む興地があった。

○改善事項

進級制度の説明に時間をかけず、活動内容などスカウトが興味を持ちそうな内容を増やすべきだった。自団の活動風景などの写真を事前準備の段階で用意できていれば、より良い発表ができた。

●16NJについて

23WSJと同じ会場、時期で開催された16NJの写真を用いてその時の様子を説明することで23WSJのイメージ作りができるのではないかとということでプレゼン

テーションを行った。

○反応

会場やサイトの様子、天候、天気やプログラム内容など16NJの写真を用いて説明してことでイメージにつなげることができたのではないかと感じている。

○評価反省

今回は16NJの参加していたアイルランドのスタッフが多く、わかっている部分が多かったので補足もしてもらうことができた。

○改善事項

自分の持っている写真と日本連盟から頂いたものだけで時間も少なかったのでプレゼンテーションできればもっと良かったのではないかと思う。

●23WSJについて (江崎広也)

23WSJについて概要を説明した。

○反応

直前または直後にアイルランド連盟の方の23WSJについてのプレゼンテーションがあったため、反応は良好であった。

○評価反省

ブリテンにある内容しかプレゼンテーションできないこともあり、報告内容も少なく難しい面もあった。アイルランド連盟派遣団として決まっていること(行程、参加費用、準備訓練)といった部分はアイルランド連盟の方から説明があったため、担当の方がいない時はその内容を元に質疑の対応を行った。

○改善事項

派遣当時は情報が少なかったが次年度はもっと充実した内容が公開されているはずなのでしっかり頭に入れてどんな質問でもはっきり答えられるように準備していつてもらいたい。

☆日本文化について

●日本の遊び(山本健太郎)

日本の伝統的な遊び(お手玉、コマ、メンコ、けん玉、万華鏡)を実際に体験してもらう形で紹介する。

○反応

どの遊びも人気で、ほとんど全員の人に楽しんでもらえたと思う。

○評価反省

遊び方を紹介する時、身振り手振りで伝えることができたが、もっと英語を活用しながら説明をすれば、より伝わるだけでなく、自分たちの力を一層伸ばすことができ

たと反省している。また、派遣団員の中に折り紙の折り方を覚えていないものがいたので非常に残念である。

○改善事項

今回、事前に準備してくる物の担当が決まっていなかったもので、次年度からは事前研修の前に全員で担当を決め、持ってくることを望まれる。また、100円ショップで買ったけん玉やメンコは使いづらいため、けん玉やメンコに関してはしっかりとしたものを用意する必要があると感じた。

●日本の遊び（野村一樹）

折り紙、大きな栗の木の下で、山賊の歌、ハンカチ落としを実施した。

○反応

折り紙は日本の文化として有名で、スカウト以上に指導者に人気があった。「大きな栗の木の下で」は英語の歌もあるので知っているのかと思いきや、アイルランドでは有名ではないらしく、歌を教えるところから始まったが、振り付けなので楽しんでもらえた。山賊の歌は歌詞をリピートする歌なので全く知らなくても盛り上げることができた。ハンカチ落としは似たようなゲームがあるらしく、説明もすぐ理解してもらうことができた。

○評価反省

教える上で、角同士をきれいに折るなど、細かい部分が出来ないスカウトが多く、指導は大変であった。しかし、器用な子や飲み込みの早い子もいたので彼らに先生役として協力してもらうことで一度に大勢のスカウトを教えることができた。また歌は、アクションのあるものかリードする人とリピートする人がいる歌を選んでいたので手応えは良かった。ただ、派遣団員全員が歌えるわけではなかったので準備不足であった。折り紙の指導は、実際に見せながら簡単に行ったが、我々が先生役のスカウトたちから逆に英語での説明を受けたりと、お互いに学習することができたと思う。

○改善事項

事前準備で打ち合わせができるくらいに準備訓練までにそれぞれがしっかり学習してネタを持っておく必要がある。山賊の歌を披露した時も突然「日本のスカウトソングを紹介してくれ」と言われたので「そなえよつねに」である。

☆23WSJに関する質問事項

- ・日本への渡航時間
- ・日本の気候
- ・会場の環境
- ・ネットの環境 (Wi-Fi)
- ・参加費(アイルランド連盟の費用はアイルランド担当者から解答)

- ・プログラム内容

今回は23WSJに関してブリテンに記載されていないことはわからないため答えることができなかった。

また、プレゼンテーション時はアイルランド連盟の担当者からアイルランド連盟の世界ジャンボリー派遣団についての説明もある費用や行程についてはそちらから対応があった。会場の環境については16NJに参加していたので彼らからも解答があった。

16NJに参加したスタッフから日本の23WSJへの要望を頂いた。

- ・水、冷たい飲み物の提供
- ・飲料などの購入でお金がかさむ
- ・Wi-Fi環境の改善
- ・トイレ、シャワールの改善

などを頂いたが、基本的には日本人参加者から出ている不満と同じであった。

10、派遣員感想

東京連盟 世田谷第5団 ローバー隊 江崎 広也

今回の派遣は自分自身第22回の世界スカウトジャンボリーであまりにもふがない思いをしてしまったところから始まりました。「次は自国で開催される世界スカウトジャンボリーにI S Tでの経験者として必ず成長する。」ということを目指してきました。それはスタッフとしてはもちろん英語能力、またスカウトとして、です。日々の生活の中で英語はやはり必要不可欠であり、毎日使っていました。スタッフとしても日々の奉仕活動の中で成長した部分学んだ部分は数えきれないほどありますが、まだまだ自分の中では足りないように感じているのが正直なところです。スカウトとしては現地のスカウトと多くの交流機会を設けていただき、日本のスカウトではない他国のスカウトの姿を肌で感じられた、というのは大きな経験となり、財産になりました。

ただ、とても楽しかった1カ月ではあったものの、当初の予定より大幅な変更が現地に着いてから、それどころか当日になってあったのは戸惑う部分があった。もちろん私たちのことを思って観光の時間を多く設けてくださったり、スカウトとの交流を増やしてくださったりアイルランド連盟の方々にはとても感謝の気持ちでいっぱいなのですが、事前に知らされたならまだしも当日に変更というのは戸惑う部分が多少たりともあったのは否めないかと思います。

余談ではあるものの、びっくりしたのは、前回の世界スカウトジャンボリーでたまたまオフィシャルの方が撮った写真がアイルランド連盟で世界ジャンボリーの宣伝のための広告に使われているということでした。嬉しいのか恥ずかしいのか...何とも言い難いものだったのですが、ほとんどのキャンプ場、スカウトデンにそのパンフレットがありサインを何度も求められ、どこに行っても自分がいるという有名人(?)の感覚を味わうことができたのは不思議な経験でした。

1カ月という期間、とても長いように思えてあっという間でした。ただそのあっという間に考えられないほどたくさんの経験をさせてもらい、たくさんの出会いがあり、とても素晴らしい1カ月が過ごせたことを感謝しています。

今派遣は第一回ということ、同時にローバースカウトのみの派遣団構成ということでどこまで良い派遣にもっていけるか手探りの部分もありました。それゆえ自分たちで協力してこの派遣を作り上げていけたような気がしています。

派遣前、英語の準備は行いましたが、これまでに経験から英語力はすぐに伸ばすことは難しいと考え、必要と思われるスカウト用語やアウトドア用語について重点的に単語を学びました。23WSJのPRを英語で行うこともあり、事前訓練では日本連盟の方々にも協力を頂き、ブリテンなどを使用して準備を行いました。直前の16NJにはISTとして参加し、空き時間を利用して海外から参加したISTと積極的に交流し、英語だけではなく海外のスカウト事情、特に、ヨーロッパでのスカウティングについて聞いたことは収穫の大きい準備となり、アイルランドでの話のきっかけにもなりました。

もうひとつの重要な準備として、現地の文化を知らないとわからない話や楽しめないこと、理解できないジョーク等、話についていけないと悔しいので文化面を中心に調べました。この派遣が決まるまではアイルランドについての本を数冊読み、歴史的経緯や最近の音楽までをざっくりと、準備を進めました。

今派遣の自身の目的はスカウティングの盛んなヨーロッパにあるアイルランドのキャンプスタッフの活動、また運営システムを学び、今後の自身のスカウティングに取り入れ活かすことでした。参加するにあたって大学の助成金プログラムを活用し、自分で資金を獲得したことは今回の派遣のモチベーションを上げる一つの要因だったと思います。

アイルランド連盟の4か所の国際キャンプ場を訪問することができ、現地でのスタッフ研修も修了することもできたので、挑戦した海外でのキャンプスタッフとしての奉仕を実現することができました。そこではベテランスタッフだけではなく同年代のスタッフと一緒に仕事をして、アクティビティを行うことができ、活動を通して休憩中や仕事の後も含めていろんな話のできたので、英語のブラッシュアップも達成できたのではないかと考えています。仕事をするときにはしっかり働き、遊ぶ時は年齢を問わずはしゃぐスタッフの雰囲気はとても楽しく、自分が楽しんでこそスタッフとしてスカウトたちに楽しんでもらえるということを改めて気付かされました。

これまでに参加した海外派遣は2週間弱だったので、今回は約一カ月アイルランドに滞在し、現地のビーバーからローバーまでの年代のスカウトとの交流、ホームステイ、観光といった様々な手段で幅広い経験ができました。また海外派遣にはつきものの突然の予定変更やトラブルも楽しむことができ、この点からも自身の成長を感じることができました。それによって英語だけでなく現地の文化、慣習（交通事情なども）、歴史に触れることができました。中でも文化交流やホームステイを通してゲストとして迎えてくれる、ホスピタリティの考えは自分にとって日本のおもてなしに通じるところでもあり、今後23WSJ

など海外からのゲストを迎えるときに思い出して実践したいと考えています。派遣中もお世話になった方々に簡単な日本料理をふるまったり、日本の遊びや歌と一緒に挑戦したり感謝の気持ちを伝えてきました。料理も遊びも好感触で事前準備や派遣中のメンバー内での連携の成果だったと考えています。個人的にはけん玉をもう少し練習していけばよかったという後悔はありますが、大勢のカブスカウトの前で披露した「山賊の歌」が繰り返して歌いやすくとともに盛り上がり気持ちのよい経験をすることができました。今回は日本や文化、スカウティングの紹介だけでなく、23WSJのPR活動を大勢の前で英語のプレゼンテーションができたことは貴重な経験となりました。また今派遣を担当してくださったスタッフの多くが16NJに参加し23WSJの下見にいらっしやっており、日本好きな方も多く色々な面で助けていただきました。特にアイルランド人からみた日本という視点を知ることができ、日本を伝えるうえでとても参考になりました。

今派遣で出会った指導者のみなさんは素晴らしい人ばかりでスカウティングとそれを支える指導者や連盟の方々の話を聞くことができ、その中身や準備、心構え、抱える問題など今後の私のスカウティングをより良きものにしていくために、大変有意義なものになりました。期間が長かった分得るものが多すぎて、未だに自分の中で整理できていない部分もあります。それはこれから報告会など人に伝えていく中で整理していき、その時に初めて自分のものにしていければと思います。いろいろな話があるのでローバースカウトはもちろん先輩指導者や後輩スカウトにも話をして、少しでも私の体験が伝わることで、海外に興味を持ったり、よりよいスカウティングを実現するきっかけになればと考えています。

今回この派遣を作っていただいた鈴木令子国際委員長を中心として日本連盟のみなさん、私たちが快く迎え入れ全面サポートしていただいたKen(ケン)さんをはじめとするアイルランド連盟のみなさんに心から感謝しています、ありがとうございました。もちろんこの派遣への参加を応援してくれた家族や団、地区の仲間、指導者の方々にも感謝に気持でいっぱいです。

今後この派遣がよりよいものとなり継続して続けられるように報告会などを通して広く伝え、今後の派遣にも協力していきたいと考えています。

私がこの派遣に参加して、印象に残り学んだことは、大きく3つありました。まずは、アイルランドの文化や人々、英語で伝える難しさ、アイルランドスカウトとの活動でした。

私アイルランドに来て感じたことは、想像以上に多くの種類の植物、野鳥を見ることができ、とても自然豊かで素敵な国だと思いました。

民家や建物は古くから使われているものが多く、ダブリン等の街中でも高い建物は歴史のある教会くらいしかありませんでした。音楽やダンスもアイルランドの伝統を若い人たちにも愛され、伝統を上手くアレンジした新しいが深みのある音楽だと感じました。その風景からアイルランドの人たちの母国愛を強く感じました。

アイルランド人の印象はマイペースで日本とは違い、あまり時間に捕われないようで時間は大体の時間でした。私が想像している環境よりゆったりしたスケジュールでした。

今回の派遣では他の派遣と違い23WSJの親善大使としての役目が強く事前に用意されていたスケジュールのようにキャンプスタッフとしての仕事は少なく、訪問した町のスカウトと交流や観光を通してアイルランドを学ぶことが多かった派遣でした。

アイルランド人の性格なのか、大まかのスケジュールは決まっていますがタイムスケジュールのようなものが無く何もする時間が無い、明日のスケジュールが決まっていないということが度々ありました。このようなことが初めてだった私たちはどこまで何を手伝っていいのか、アイルランドの人たちのやり方があるのではないかと遠慮や気を遣いすぎて戸惑い何もできずに前半の一週間ほど無駄にしてしまう時間がありました。発表の準備や練習に時間を使いたいや自分たちでこんな仕事をしたい、料理は私たちも作りたい等の意志表現が大事なのだと遅れて気がつきました。もっと早い段階に気づけば有効に時間を使うことができたのではないかと反省したと同時に自ら恐れずなんでも聞く、意志を伝えるなければならない事を学びました。

キャンプスタッフをしてみたいと思い参加した私にとって事前に聞かされていたスケジュールと大きなギャップがあった為、最初は戸惑いがありました。ですが、多くのスカウトや地元の人たちと話す機会が豊富にあったので普段キャンプスタッフではなかなか話ができない多くのスカウトと話すことができ、よりアイルランドを知ることができました。

アイルランドでは海外で働く人が多く、日本の技術や会社にも注目があるようで高校や大学の授業に日本語の授業があるところも多くありました。知り合ったスカウトも日本に興味があるから日本語勉強しているんだ。と言っていました。その大半の興味を持ったきっかけが日本のアニメだということにも驚きました。

2つ目に英語で伝える難しさを思い知らされました。アイルランドの英語はなまりが強く早いので英語が不得意で話せない私にはとても難しく聞こえました。それでも私は英語上手くないからごめんねと言うとみんな大丈夫だよ。私たちも日本語話せないからと丁寧に

ゆっくりと話してくれたので恥ずかしがることなく話に入ることができました。初めころは無理してでも頑張っ英語を聞いていましたが数日経っても耳が慣れず、疲れてしまうと英語を聞くことを耳が受け付けなこともありました。そんな時は英語のできる派遣メンバーが助けてくれました。この派遣中で簡単な会話なら聞いていて何を言っているか解るようになったのですが、自信がなくて他の派遣メンバーに確認したり、うまく返せませんでした。

NAAS でスカウトと交流の為、スカウトハウスで夕食会をしました。最初はアイルランドスカウトも警戒していたのか、私たちに話しかけることなく、アイルランドスカウト同士だけで話していました。日本人スカウトもそれを見て良い気はしなかったのですが、アイルランドスカウトの一人にちょっとした質問をしたことをきっかけにどんどん話が盛り上がり、一人から二人、二人から三人とスカウトが増えて行き最終的にはそこにいたスカウト全員で話が盛り上がっていました。お互いにどうしてコミュニケーションをとっていいかわからなかったようでした。それでも少しの勇気と言葉でこんなにも打ち解けるのだと実感しました。

約1カ月アイルランドで活動しましたが、英語力あまりついていないのではないかと不安で自信がなかったのですが、以前より洋画の会話や知り合った外国人の英語がすなりと耳に入るようになっていて驚きました。会話するレベルに至っていないけれど、自分の中では成長したと思いました。派遣中に学んだことは、たとえ話せなくても恥ずかしがらずに伝えようとするのが大切なのだと感じました。

3つ目はアイルランドスカウトについてです。アイルランドも日本と同じスカウトシステムでビーバー、カブ、スカウト、ベンチャー、ローバーで成り立っていました。ですが、私がこの派遣で感じたことはスカウト一人一人の責任や意識がとても強いと感じました。

アイルランドでは18歳で成人なのもありますが、16~18歳のスカウトがリーダー同然キャンプスタッフなど役目を果たし、仕事をしていました。日本ではそこまでできるスカウトは少ないのでかなり驚きました。

この派遣の中で多くのスカウトと交流しましたが、アクティビティとして活動したものはハイキング、クライミング、カヌー、セーリング、モーターボート、ゲーリックフットボールをしました。

印象に強い物はシースカウトの団で体験したカヌーとセーリングです。シースカウトとは海のスポーツを中心に活動しているスカウトです。スカウトは普段からカヌーなどをしている為に水の上を自由に移動できます。初めて体験した私はうまく操作できず、まっすぐ進めないでゆっくりと丁寧に教えてくれました。力加減が難しいと思いました。

セーリングは風を読み、舵とロープで操作するスポーツでなかなか操作が難しく大きい船で派遣メンバー全員で乗り操作を体験しました。操作が難しいのと風の関係で一人用の船には乗ることができなかつたが、モーター付きボートで湖探検や実際に操縦しました。

このようなスポーツを通して言葉だけでは越えられないコミュニケーションでよりアイ

ルランドスカウトと親密になれました。

アイルランドスカウトも一人一人が言語が違いうまく伝わらないかもしれないけれど、私たちが理解するまで話してくれたことが本当に嬉しく、こちらをもっと話したい、もっと知りたいと思えました。

このアイルランド英語研修・キャンプスタッフ海外派遣の私個人の目的は「新しい自分に出会う」でした。自分に自信が無い、でもそんな自分を変えたい。この派遣で英語はもちろん行った事のないアイルランドを見て、感じてそこから何かを学べると思い参加しました。実際にこの派遣を終えて、英語力もスカウトの能力としても自分に甘かった所もあったと気付きました。ですが、そんな英語力も自分の中では聞きとることや、言葉だけがコミュニケーションではないということ学び、周りに合わせることも大切だが自分のペースや時間も大切なのだと感じました。

一番苦労したのは同じ派遣メンバーと約1カ月共同生活する難しさを痛感しました。会って間もないメンバーと一緒に過ごすのですからそれなりに揉めたり覚悟はしていましたが、女性一人がここまで辛いとは思いませんでした。男女ですからお互いを完璧に理解することはできません。私は今まで女子スカウトがいなくても私なら大丈夫だと考えていました。けれど、男性との意見や考え方が違ったり、部屋が私だけ一人部屋だったことが1カ月も続くと強い孤独感を感じました。仕方がないことだと頭では思っている、せめてもう一人女性メンバーがいれば心強いのにと考えるばかりでした。

この派遣で一番の難題は日本派遣メンバーがうまくコミュニケーションをとり、みんな一人一人が協力して過ごすことが大事だと思いました。

私はこの派遣で人と人の関係、コミュニケーション方法に関して多く学ぶことができました。これからは派遣で学んだ事を活かして生活やスカウト活動に役立てより良いスカウト、指導者になりたいと思います。

アイルランド海外派遣が私にとって初めてボーイスカウト活動として海外へ行った経験になった。派遣が始まるまでは右も左もわからず不安でしかなかったが、派遣が始まると言葉ではあらわせないほど有意義な海外派遣であった。

今回のこの派遣では、キャンプスタッフもちろんだが、アイルランド連盟所有のキャンプサイト4カ所を巡ったり、23WSJのことに關してのプレゼンテーションを行ったり、現地の団を訪問させていただいたりと様々なことを経験した。

4カ所巡ったオフィシャルキャンプサイトでは、主にキャンプサイトスタッフとして現地のリーダーとそこでボランティアとして活動するスカウトと一緒に活動することができた。現地のスカウトとは活動だけではなく、各キャンプサイトのアクティビティを体感させてくれた。クライミングやウォーターアクティビティ。日本のキャンプ場ではなかなか体験できないものばかりだった。

23WSJプレゼンテーションでは、東京での事前研修の中で内容を1つ1つ細かく設定し、アイルランドの現地に着いてから本格的にプレゼンテーションを作成した。作成したスライドから実際に話す内容まですべて英語で考え、みんなで完成させ、現地のスカウトやリーダーが多数いる前でしっかりプレゼンテーションができた時は感動した。

現地のスカウトハウスの訪問では、ビーバースカウトから保護者の方まで様々な方に日本の文化を紹介した。けん玉や折り紙などの昔からの遊びも紹介したが、日本食を紹介しよう！ということで、親子丼やうどんも実際に作って振る舞った。現地のビーバースカウトが「美味しいね！これ！」と言って食べてくれた。日本食が海外で人気なことは知っていたがここまでとは思わず本当に驚いた。

活動の中で一番記憶に残っているのは、ある現地のキャンプサイトボランティアスカウトと交流した時の話だ。日本とアイルランドの日常生活の違いからスカウティングの違いまでいろいろな話をした。その話の中で彼は「あなたはなぜボーイスカウトを続けているの？」という質問を投げかけてきた。なぜ続けているか。簡単な質問なはずなのに、答えるまでにすごく時間がかかってしまったのを覚えている。この質問を聞いて、自分がなぜボーイスカウトを続けているのかということ。当たり前のことだが、アイルランドの地でボーイスカウトを自分自身が続ける意味と続ける理由を考え思い出す事ができた。

この派遣でいろいろな事に悩んだり、不安な事もたくさんあったが、6人のメンバーで支え合い無事派遣を終了することができた。たくさん迷惑もかけたが本当にメンバーの皆には感謝している。この派遣を計画してくださった、日本連盟、アイルランド連盟、鈴木国際委員長、Kenさん。関わってくださった皆さんに感謝したい。

そして、この経験をこれからの自分のスカウト運動はもちろんのこと、後輩スカウトへの指導に役立てていきたいと思う。

今回のアイルランド派遣で私はスカウティング、異文化交流の二点において自分の課題を発見することができた。

スカウティングに対しての私の課題は、スカウトが到達点を意識できる活動を提供することである。この課題は、アイルランド連盟のスカウティングと日本のスカウティングを比較する中で発見した。現在、アイルランド連盟は南北アイルランドのスカウト連盟の合併に伴いプログラムを作り直している最中である。そのような新しいプログラムと日本のプログラムを比較することは、現在自分たちが参加しているスカウティングについて考える際に大きな意味を持っていた。日本連盟との大きな相違点は、プログラムのわかりやすさであると考えた。各スカウトの最終目標が良き市民であるなど、二つのプログラムの間には本質的な点において大差はない。しかし、それらをスカウトに伝える手段が大きく異なっている。例えば、カブやビーバーなどではイラストの書かれたカード、ビーズなどを用いて目標を示しており、この活動の中で自分がどのように成長できるかということがわかりやすく示されていた。私はボーイ隊での活動を終え、ベンチャー隊に昇進するまでスカウト活動を楽しみと感じたことはほとんどなかった。活動自体は決して質が低いものではなかったが、私は活動そのものに意義を見いだせなかった。人は無意味だと感じることを何年も続けたいとは思わない。子供であれば尚更である。アイルランド連盟はその点を把握し、連盟内で統一された手法を使いながら、スカウト達が進んでいる目標を意識しながら活動ができるように配慮している。活動の意義を考えることの重要性を、アイルランドのスカウティングを学ぶ中で感じた。

また、異文化交流という点においては二つの課題を発見した。一つ目の課題は英語の発音である。会話の最中、発音の悪さのために聞き返されることが多く、会話における最大の障害となっていた。二つ目の課題は不安である。英語の技能には発音以外にも多くの不安があり、その不安のために会話を躊躇することが多々あった。そのような不安も積極的に会話に参加する中で払拭されるものであったはずだ。しかし、私はその不安を乗り越えられず、多くの機会を逃してしまった。その不安を越える積極的な姿勢がなければ、異文化で育った人々の間での相互理解などはありえない。言語とは、結局は意思疎通を円滑に行うための手段である。その手段は使用者の交流をとろうとする積極的な姿勢が無ければ意味をなさない。今までは英語の技術の向上にばかり努めてきたが、今後は、コミュニケーションを取る際の消極的な姿勢という根本的な点にも目を向けるべきだと痛感した。言葉と姿勢の二つの総和が、異文化交流に関わらず、人との交流を実りあるものにするかどうかを左右するという事を今後も意識し続けたい。

以上のことは全て、アイルランドの人々の支援の下で行われた一か月に及ぶプログラムの中で見つけられたものだ。限られた期間の中で、アイルランドの文化、そしてスカウテ

イングについて最大限に伝えてくれた彼らの支援がなければこのような有意義な経験はできなかつた。いつか、彼らや世界中のスカウトにも、私や他のクルーがしているほどの感謝をしてもらえらるようなプログラムを提供できるようになりたい。

兵庫連盟神戸第58団ローバー隊 山本健太郎

私はこのアイルランド派遣を通して、今まで経験したことのないことを数多く経験し、また、様々な考え方に触れることで、コミュニケーションを取る上で大切なことを改めて認識することが出来た。

まず一つ目は、言語が違う人々と交流する時には、英語能力の甲乙に関わらず、まず自分を表現する力が必要だということだ。いくら英語が流暢に喋れても、自分のことを表現できなければ喋れていないのと同じである。逆に英語が出来なくても、自分のことを何かしらの手段で伝えることが出来れば、そこには強い絆生まれる。

二つ目は、趣味を持ち、それをとことん追求することである。一見コミュニケーションとはあまり関係ないように思われるが、趣味を持ち、それについて深い理解があるということは、最初の話のきっかけになる。派遣団の中には様々な趣味を持った人がいた。それは音楽であったり、スポーツであったり、動物のことであったり、音楽のことであったり、皆が多種多様な趣味を持っていた。それらの趣味は、必ず話のきっかけになり、相手と同じ趣味を持っていれば、すぐに意気投合することが出来た。趣味を持つことは、物事に対する情報を持つことに繋がる。つまり、コミュニケーションを取る上では、様々な情報を持っているということは非常に重要である。様々な情報を持っていることで、そこから話を広げることが出来る。全く知らなければ、話すらできない。

三つ目は、常に質問を持っておくことだ。これはアイルランドにいる時、常に心がけていたことである。質問を持つには、相手の話をよく聞き、それに関心を持っておく必要がある。質問を常に持っていれば会話が途切れることがないし、また、様々な知識を持つことが出来た。さらに英語のリスニング力も鍛えられた。

今回の派遣を通し、コミュニケーションを取る上で最も大切なことを再認識することが出来た。見知らぬ相手に、自分をしっかりと表現するということは本当に難しいことで、日ごろから常に心がけておかなければならない。また、自分の趣味を大切にし、同時に様々なことへ関心を持ち、情報を集めておく必要がある。そして、これらの能力はこれから社会に出ていく私にとって、とても大切なものとなるだろう。

私はこの一か月で、本当に多くのことを学ぶことが出来た。私はこの派遣で得たすべてのものを心にとめ、これからも成長していきたいと感じた。

最後に、この派遣に協力し、学びの場を与えてくださったすべての方々へ感謝したいと思う。

11、お世話になった方々

◎Special



Ken Lacey

今回の派遣を企画して下さった人。派遣全体を通して様々な場面でサポートをして下さった。



Annette Byrne

Kenさんの奥さん。派遣全体を通して、車での移動などをして下さった。



Michael John Shinnick

アイルランド連盟のチーフスカウト。様々な場面でお世話になった。



John Lawlor

アイルランド連盟の Chief Executive Officer。気さくで陽気な人。Dublinにて一緒に食事やリバーダンスを觀賞させてもらう。



Nora Lawlor

Johnさんの奥さん。とても豪快で親切な人。Dublin 観光をして下さった。他にもお弁当を作ってく下さったり、とても優しい人。



Stephen Carey

WS Jのリーダー。Dublinにて様々なサポートをして下さった。学校の先生。



Orla Misteil

WS Jのリーダー。Dublinにて様々なサポートをして下さった。Stephenさんの婚約者。

◎Castle Saunderson



Tony Smith

Castle Saundersonのキャンプチーフ
陽気な人。息子のAdamを溺愛している優しいお父さん。



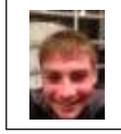
Finbar Gethins

Castle Saundersonで派遣団の世話をしてく下さった。とても親切な人。
WS Jの関係者。Castle Saundersonで働いている。



Gerry Finnegan

Mount Melleray での研修に参加していたリーダー。
Castle Saunderson のスタッフ。



Brian Conor

Castle Saunderson でガイドをしてくれたローバースカウト。
蜘蛛が苦手。



Coline Larcher

Castle Saunderson で開かれた Phoenix Challenge という
キャンプイベントの手伝いをしに来ていたフランスのローバースカウト。



Conor Murphy

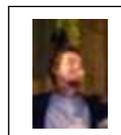
Brian と仲の良いローバースカウト。
野村スカウトのアイランド語の初代先生。

◎Dundalk



Cristopher Browne (兄)

リーダー。現在仕事で韓国へ。



James Browne (弟)

リーダー。よく喋る。話が上手。



Adian Mc Ginness

リーダー。

◎Draperstown



Collwyn Brunton

ホームステイをさせてくださった。リーダー。



Karen Bradley

ローバースカウト。Collwyn の恋人。町を案内してくださった。

◎Sea Scout



Paul O'Dwyer

リーダー。カヌーの仕方を教えてくださった。



Siobhainn

リーダー。みんなのお母さんのリーダー。ラザニアがおいしい。



Orla Kelly

ローバースカウト。

◎Fota



名前不明

Fota のキャンプリーダー。



Chris Boyle

Fota のキャンプリーダー。ローバースカウト。バッジを集めている。



Claire Beasley

Fota のキャンプリーダー。ローバースカウト。

T シャツをプレゼントしてくれた。



Kevin O'Connor

Fota のキャンプリーダー。

◎Larch Hill



Damian O'Sullivan

Larch Hill の責任者。優しくお茶目な人。



James Usher

Larch Hill で派遣団の面倒を見てくださった人。

一見無愛想だが、とても良い人。けん玉に夢中。



Christy McCann

アイルランド連盟の国際委員長。Larch Hill の交流会に参加して下さる。



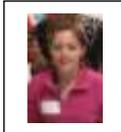
Kate Cowan

リーダー。Larch Hill の交流会に参加して下さる。



Tom Clarke

ローバースカウト。Larch Hill の交流会に参加してくれた。
また、Larch Hill から車で送迎してくれる。



Claire Mcaroe

ローバースカウト。Belfast で食事をする。
また、Larch Hill の交流会に参加してくれた。



Trevor Timpson

ローバースカウト。Larch Hill の交流会に来てくれる。

◎Dublin



Aneta Korczak

ポーリッシュスカウトのカブリーダー。



Sprout

リーダー。

◎Mount Melleray



Willie Ahern

Mount Melleray での研修に参加していたリーダー。



Karen Masterson

Mount Melleray での研修に参加していたリーダー。Larch Hill のスタッフ。



Siobhainn Fleming Kelly

Mount Melleray での研修に参加していたリーダー。



Pat O'Connor

Mount Melleray での研修に参加していたリーダー。



Kenny Norris

Mount Melleray での研修に参加していたリーダー。Larch Hill のスタッフ。

◎Killaroe



Diarmuid O'Brian

Killaroe で派遣団のお世話をしてくださった。陽気な人。愛妻家。



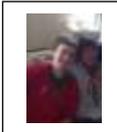
Brian Webster

Killaroe の地域の地区コミッショナー。



Keith Webstar

Killaroe のローバースカウト。スタッフ。ホラー映画が苦手。



Patrick Denning

Killaroe のローバースカウト。スタッフ。



Cian Ó Briain

シェフを目指すキラルーのシェフ。

◎Rush



Jack Cummins

Rush のベンチャースカウト。ギターが上手く、陽気な性格。



Eoghan Ó Riain

Rush のローバースカウト。



Maisie Pearl Gorman

Rush のベンチャースカウト。



Richard Mc Dyer

Rush のベンチャースカウト。陽気な性格。

12. 会計報告

平成25年度 アイルランド英語研修・キャンプスタッフ派遣

会計報告書

製作者：兵庫連盟 神戸第16団 吉田 拓馬

8月17日	成田空港	両替
日本円：30,000円	⇒ ユーロ：約220ユーロ	レート：約136円

日時	場所	使用用途	金額
8月17日	成田空港	夕飯	6000円
8月22日	スーパー	雑費類	約11ユーロ

9月14日	シャルルドゴール空港	両替
ユーロ：約209ユーロ	⇒ 日本円：25707円	レート：約123円

日時	場所	使用用途	金額
9月15日	成田空港	宅急便	1660円

収入：100,000円

支出総額：7660円 + 約11ユーロ + 両替手数料 = ※13306円

(※約11ユーロは帰国時の空港でのレート：約123円で計算し日本円と合算しています)

残金：86,694円

日本連盟にお届けした残金：85,558円 + 1.57ユーロ

残金との差額：-1136円 + 1.57ユーロ

13、次年度への提言

今回の派遣を通して派遣団員が感じたことを今後の派遣をより充実した、最高の派遣にするための提言である。

1. 派遣準備

1.1 参加個人として

1.1.1 歴史

アイルランドはヴァイキングやイギリスなど侵略された歴史もあるいっぽうで、その影響を色濃く受けている国である。現在でも北アイルランドはイギリスの一部であり、アイルランドの歴史について十分に学んでいく必要がある。アイルランド、北アイルランドの間にあるキャンプ場では、Messenger of Peaceの活動が展開されている。このキャンプ場が拠点になったのでこの背景を知っているかどうかは重要となった。アイルランドの歴史の本を読むことはもちろんだが文化面を知っておくことは現地での交流に非常に役立つ。古くからある民謡曲、楽器、ダンスだけでなく最近の曲についてでも知っておけば話のきっかけになり、理解を深めることができる。

1.1.2 日本文化

コマ、折り紙、漢字など日本らしさを強く感じさせるものに対する興味はあるようで、実際に体験できる機会を提供したところ積極的に関わってくれた。クルー自体がコマを回せたり、折り紙のバリエーションを増やせられれば、より積極的な交流につながったと考える。箸の使い方なども、時間はかかったが教えることで良い交流ができた。

1.1.3 持ち物

気候はかなり涼しいので夏季より春季キャンプのイメージの方が近いかもしれない。長期派遣なので爪切りなどの生活に必要なものも忘れないように。交歓品にはチーフとバッジが多い。チーフリングをしていないスカウトもいる。ホームステイなどのお礼として扇子など日本の工芸品はあるととても便利である。また名刺は今後の連絡にもつながるのでぜひ制作しておきましょう。

1.2 派遣団全体として

準備訓練が一度しかないため派遣員確定段階で連絡先が分かるため連絡を取り合っ
てコミュニケーションをとっていきスムーズに派遣に臨むことができる。

1.2.1 プレゼンテーション

写真や資料、コマなどの遊び道具の準備が重要である。特にスカウティング関係の写真は自分たちのものを使うと説明しやすいため、用紙にしておくことが望ましい。

1.2.2 文化紹介

遊び道具は誰が何をどれくらい持っていくかを準備訓練までに決めておくとかぶることがなく荷物の整理も楽になる。

2. 派遣期間中

2.1 英語

基本的に我々が非英語圏の人間であることを理解してくれていたため、スピード、アクセント共に違和感を覚えることは少なかった。しかし個人差はあり、年配の方と話す際にはアクセントが特徴的な場合もあるので注意が必要である。事前準備としてアイルランドの映画を観るなど、特有のアクセントに慣れるのも効果的であるが、それよりも基本的なリスニング、スピーキングを磨くことが最優先だと考える。基本的な会話ができ、積極的に会話に参加する姿勢を崩さなければ多くの会話の機会を得られると考える。

2.2 アイルランド語

しっかり話せる人はなかなかおらず、同年代の指導者やスカウトも挨拶程度しか話せないことが多い。そのため挨拶ができると紹介の時のつかみは完璧になれる。

2.3 アイルランドの南北関係、イギリスとの関係

数年前まで続いていた対立は収束し、現在は良好な関係が続いている。南北の境界には検問も存在せず往来も自由だった。派遣の中で交流した人々も、現在の関係は良好なものであり対立感情は無いと言っていた。しかし、ある南アイルランドの住民は南北アイルランドが統一されるべきだと語っており、未だに根本的な問題の解決には至っていないと感じた。

また、イギリスとの関係についても良好に感じた。文化面でも色濃く影響があり、最近ではエリザベス女王がアイルランドに訪問している。

2.4 現地の治安

治安は非常によく、日本と同じ意識で町を歩いていても問題は無かった。ただし、ダブリン市内では観光客を目当てにした悪質な商売がいくつか存在しており、案内をしてくれた方から注意を受けた。例えば、着ぐるみを着た人と写真を撮ったら事

後的に料金を請求されるなど、注意していなければ簡単に引っかかってしまうようなものがある。また、一部ではスリが頻発している場所もあったので、事前にダブルリン在住の人に確認する必要がある。

2.5 スケジュールに関して

事前に派遣団員に提示されていたものはあくまで予定であり、現地で変わることも多いだろう。しかしながら、それがあまりにも多いことが問題としてあがった。現地では自分たち頼みなのでコミュニケーションをしっかりと取る必要がある。

3. 世界ジャンボリーについて

今回日本ジャンボリーに参加されたリーダーとのミーティングがあったのだが、その場で多くの質問や改善点があがった。次年度もこの派遣は実施されると思うが、少しでもその回答を持っていけるようにすることが良いと思う（答えられる範囲では我々も回答済み）。

4. 日本連盟、アイルランド連盟への提言

当初の派遣内容と予定が大きく変わったことが直前で紙面でのみ送られてきたため、もう少しはやく連絡があればまた違った準備ができていたのではないかと思う。またアイルランド到着後、連盟間での打ち合わせのズレを感じざるを得なかったため、より綿密な調整をしていただきたい。

4.1 アイルランド連盟へ伝えた今派遣の評価・要望

派遣終盤にアイルランド連盟の方から今派遣の評価反省を行いたいとのことでミーティングがあった。

派遣団員から挙げた意見は以下のようなもの

- ・アイルランド中のいろんなところへ行けてよかった。
- ・シースカウトは日本には存在しないため、彼らとの交流は貴重な経験となった。
- ・大勢の前で、英語でプレゼンテーションを行うことは非常に貴重な機会となった。
- ・キャンプファイヤーなどの交流も行いたかった。
- ・移動が多く、つらい部分もあった。
- ・色々なスカウト、指導者と会えた一方、出会いと別れが多かったため、スカウトと仲良くなる時間があまりなかった。
- ・キャンプスタッフとしての仕事をもう少ししたかった。

1 4、派遣期間中のネット環境について

○Wi-fi 利用可能キャンプ場

- Castle Saunderson,
- Larch Hill
- killaloe

○PC (パソコン) が利用できる (申し出る必要あり)

- Mount merrey (PC を貸してくれるが日本語表示はできない)

☆補足

ホームステイでは家庭によっては Wi-fi があつたりなかつたりするので確認する必要がある。日本連盟からのメールチェックや仲間同士での連絡の必要があるのでその旨を伝えて迷惑のかからないように利用しましょう。

また Wi-fi がなくてもネットが使える PC を貸していただけることもあるが、多くの場合日本語表示ができず文字化けするので日本語の文章は読めない。

日本連盟の準備訓練中は Wi-fi が利用できない。今回は連盟職員の方の計らいで少しの時間だけ職員の方の PC を使用することができたので、アイルランドや現地で行うプレゼンテーションの資料集めを行うことができた。

現地で改めて資料集めをする必要があることもあるので、利用できるときに利用しておくのがベストです。

空港では Wi-fi が付けることが多いが時間制限があるので優先順位を考えて利用しましょう。またダブリン市内のバスは Wi-fi 利用可能なバスもあります。

15、JAPANESE EVENING



◎日時：2013年9月6日

◎場所：Larch Hill キャンプサイト

◎時間：18時～22時

◎対象：現地のアイランドのスカウト・指導者と保護者

◎内容：日本料理のテイスティング・日本文化の体験・鶴折りの体験

☆日本料理

- ・うどん (Japanese white noodle)
現地のチャイニーズショップにてうどんと
アフリカ系ラーメンスープの素をベースに調理。
- ・焼きおにぎり (toasted rice ball)
現地のスーパーにてお米 (タイ米・原産国がわからない米
の2つ) を購入し、
ブレンド米にして調理。



☆日本の文化体験

- ・「いただきます」の文化の体験
- ・けん玉
- ・こま回し
- ・日本語体験 (団扇に名前を書いてあげるもの)
- ・鶴折り体験
- ・実際鶴を英語でレクチャーして折ってみる。



付録1、アイルランド派遣に参加し、初めて知ったアイルランドについて

以下、ざっくり書いてみました。あとはアイルランドで自身の目でアイルランドで確認、発見して来てください！！（^O^）／

○食事

- ・ポテトは主食
- ・アイリッシュシチュー（特にギネスシチュー）は最高にうまい

○南北問題

- ・南北での対立はほとんど無く、スカウティングでも南北が共に活動している
- ・イギリスとの関係はそこまで悪くはない
- ・ただし、南北の統合に関しては意見がまとまっていない

○言葉

- ・アイルランド語を話せる人はほとんどいない
- ・アイルランド語の挨拶ができればつかみはOK
- ・busの発音はバスではなくボス。訛りが強い
- ・若い人の発音は聞きやすいけど高齢の人は訛りが強くて困難な場合も

○スカウティング

- ・山は無いので、登山ではなく hill climb という丘でおこなうハイキングをする
- ・ビーバースカウト、カブスカウトはやっぱりやんちゃ
- ・制服が日本のカブスカウトみたい
- ・スカウトショップのグッズがおしゃれ

○アイルランドから見た日本

- ・日本といえばスシとポケモン
- ・AKB48の過激なPV（ヘビーローテーション）は大好評

○文化

- ・ゲーリックハーリングはクレイジーなスポーツ、おもしろい
- ・U2、Cranberries、Corrsなどの落ち着いた雰囲気曲が年齢問わず人気
- ・ジョークがきついけど実はみんないい人。慣れないうちはショックを受けるので注意

○気候

- ・気温は涼しくとても快適。夜は寒いくらい
- ・朝も寒い。ヒートテックを着るほどではないけども
- ・20℃中盤でも猛暑という感覚
- ・天気は変わりやすく、雨が多い
- ・日が長く、到着当初は感覚が狂った

まだまだありますが、あとは派遣参加者から直接お話ができればと思います！！

愛蘭士-日本

Rover scouts
Japan contingent

日本

- An island next to South Korea
- Various climate
- Yamaguchi



• What Japan is ?

• Scouting in Japan

• 23WSJ

OUTLINE



SEASON

TOKYO



MT. FUJI



KYOTO



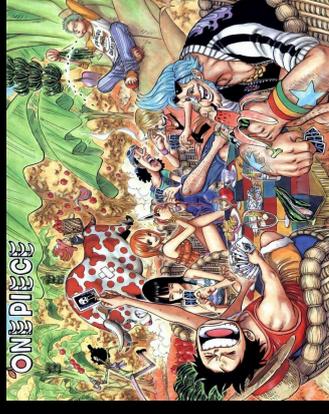
HIROSHIMA



FOOD



COOL JAPAN ANIMATION



TECHNOLOGY



LET'S PLAY ENJOY TOGETHER



UNDER THE SPREADING CHESTNUT TREE

大きな栗の木の 下で

Under the spreading chestnut tree
 There we sit both you and me
 Oh how happy we will be
 Under the spreading chestnut tree.



大きな栗の木の 下で
 (o ki na ku ri no ki no shi ta de)
 あなたと私
 (a na ta to wa ta shi)
 仲良く遊びましょ
 (na ka yo ku a so bi ma syo)
 大きな栗の木の 下で
 (o ki na ku li no ki no shi ta de)



YAMAGUCHI 2013
30th APR SCOUT JAMBOREE
16th NIPPON JAMBOREE



SCOUTING IN JAPAN



YAMAGUCHI 2013
30th APR SCOUT JAMBOREE
16th NIPPON JAMBOREE



YAMAGUCHI 2013
30th APR SCOUT JAMBOREE
16th NIPPON JAMBOREE



INTRODUCTION ~23WSJ~

- 28th July 2015 to 8th August
- 30,000 scouts
- 161 countries



YAMAGUCHI 2013
30th APR SCOUT JAMBOREE
16th NIPPON JAMBOREE



THEMA ~23WSJ~

“和” (WA) : “a Spirit of Unity”



CONCEPTS ~23WSJ~

- Energy
- Innovation
- Harmony

SITE ~23WSJ~

- Kirara-hama, Yamaguchi, Japan
- 1km from north to south
- 3km from east to west

ACCESS ~23WSJ~

- Fukuoka airport
- Shin-Yamaguchi Station
- Yamaguchi Ube airport
- Kansai International airport
- Iwakuni Kintaikyo airport

WEATHER ~23WSJ~

- Average 27.9 degree Celcius
- Mainly sunny, but sometimes showers and cloud
 - Very hot and humid

MODULE ACTIVITIES ~23WSJ~

•Global Development Village

•Culture

•Science

•Community

•Nature

•Peace

Thank you for listening

Let's meet again in

Japan at 23WSJ!!!

PEACE ~23WSJ~

**Representation at the Hiroshima Peace
Memorial Ceremony**

